

全 社 協

Action Report

熊本地震第 10 報

2016（平成 28）年 5 月 16 日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
Japan National Council of Social Welfare
(全社協 ぜんしゃきょう)

政策企画部 広報室 z-koho@shakyo.or.jp
TEL03-3581-4657 FAX03-3580-5721
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2
新霞が関ビル

※熊本県熊本地方を震源とする地震についての情報をお送りします。

「平成 28 年熊本地震」の被害状況、支援の取り組み

熊本県熊本地方の地震が発生してから 1 か月が経過しました。一連の地震により、約 8 万棟の建物被害が発生し、12 日現在で約 1 万人が避難生活を送っており、車中泊を余儀なくされている方々も多く、厳しい状況が続いています。

全社協では、「平成 28 年熊本地震福祉対策本部」を 4 月 18 日に設置し、全社協構成組織及び関係機関と連携して、被害状況やニーズを把握するとともに、被災地への支援活動についての情報提供を行ってまいります。

■ 社会福祉法人・福祉施設関係

▶ 全国保育士会

○スカンポ募金により熊本県・熊本市の保育士の活動を支援



全国保育士会上村初美会長は、5 月 8 日に熊本県を訪れ、保育士会組織である、熊本県保育協議会保育士会および一般社団法人熊本市保育園連盟保育士会に対し、全国保育士会被災地支援スカンポ募金の支援金をそれぞれ 100 万円ずつ贈呈した。

支援金目録を授与

全国保育士会上村会長(右)、熊本県保協 弥頭副会長(中央)、熊本県保協保育士会 犬童会長(左)

同支援金は、災害により被災した地域の保育士会の運営を支援するとともに、子どもの育ちを支える保育士等の活動を支援することを目的に、これまでの「東日本大震災被災地保育士会支援募金(通称:スカンポ募金)」を「全国保育士会被災地支援スカンポ募金」に変更したものである。



(一社)熊本市保育園連盟 江藤会長
(左)、(一社)熊本市保育園連盟
保育士会 櫻木副会長(中央)

被災地の保育士会が災害で被害を受けた子どもたちの保育等に必要とすることや必要な物資の購入等に活用いただく、用途を限定しない支援金である。

熊本県保育協議会保育士会では、各避難所における保育等の支援ニーズを把握し、比較的被害の少なかった県北・県南の保育士らをボランティアとして派遣して、出前保育を行っている。今後、支援金はこのような取り組みにも活用されていく予定である。

また、九州社会福祉協議会連合会保育協議会保育士会より全国保育士会に対し、全国保育士会のロゴとスカンポマークが入った「スタッフジャンパー」と「のぼり旗」が寄贈された。

このジャンパーを身につけて、熊本県内の保育士たちが被災地で子どもの育ちを守っている。



寄贈された
スタッフジャンパー

■ 支援活動レポート

▶ 熊本県保育協議会会長 御船昭和保育園沖田園長インタビュー～保育園を避難所として地域の方々を受け入れて

御船町は、熊本市の南東に位置し、北側は益城町と隣接する人口約1万8千人の町である。

御船昭和保育園は、地震による建物被害は軽微であったため、4月14日の前震後に60人、16日の本震後は、午前3時までに199人の避難者を保育室で受け入れた。

7～8割は、要援護者で、避難者をサポートできる男性は、7～8人しかいなかった。その他、園庭で車中泊の方もいた。



御船昭和保育園

地震後、停電、断水が続いたが、幸い保育園敷地内の井戸で水は確保できた。消防団から発電機を借り、保育園の料理器具を用いて炊き出しを行った。

御船昭和保育園は、来年創立 90 周年を迎える歴史があり、地域には保育園の卒園生が多く、ふだんから保育園をサポートしてくれている。支援物資は数日はやってこないとの見立てをし、OBを中心に避難者が自宅から食材を持ち寄ったところ、山のように集まったため、本震翌朝から炊き出しをして、温かい食事を出すことができた。「保育園へ避難してよかった。」という声もあった。

断水が復旧するまでトイレの水が一番大変であった。3 日間ひたすら井戸水をくんでバケツリレーを行った。「3 日間頑張れば、どうにかなるだろう。」が合言葉であった。



沖田昌史園長

21 日まで 1 週間、避難所として保育園を使用し、その後保育園を再開することとなったため、避難されている要援護者の方々の新たな避難先を民生委員、介護支援員、保健師等と協議し、福祉避難所、ショートステイ、老健施設、病院等との調整に駆けずり回った。

自宅へ戻っても食事を作れない高齢世帯もあり、安否確認を兼ねて、夕食の配布を 1 週間行った。民生委員さんとは、「うちの地区から孤独死は出さんぞ。」が合言葉になった。

自分も含め避難者の方々とお互い全員が被災者であると思っていて、助け合いましょうという気持ちで取り組んだ。

(全社協広報室)



炊き出しの様子

■ 社協・ボランティア関係

○ボランティア活動をお考えの皆様へ

被災地の社会福祉協議会では、渋滞などによる被災者の生活への影響、余震による家屋倒壊などの安全面の確認などの調査を行いながら、災害ボランティア活動が行われている。

これまで、たくさんのボランティアの力で家屋の片付けが進んだお宅も増えてきている。

しかし、災害ボランティアセンターによっては、ボランティア活動への参加が減っており、予定した活動ができなくなっている状況となっている。

ボランティア活動の依頼は、連休後、避難所支援や個人宅の片付けなどが本格化していくうえ、仮設住宅への移転の時期や、仮設住宅での生活に際しての支援など内容は多岐にわたり、また、長期的に続くことが見込まれる。

その時々で、多くのボランティア皆様の力が必要とされる場所であり、息の長いご支援をお願いしたい。

○災害ボランティアセンターの設置に向けた対応

- ・一般市民や学生等によるボランティア活動については、県・市町村社協において、順次、災害ボランティアセンターが開設されている。

4月19日(火)開設:【熊本県】宇土市、宇城市、菊池市

4月20日(水)開設:【熊本県】南阿蘇村【大分県】由布市

4月21日(木)開設:【熊本県】益城町、山都町

4月22日(金)開設:【熊本県】熊本市、美里町、大津町、合志市、菊陽町

4月24日(日)開設:【熊本県】西原村

4月25日(月)開設:【熊本県】甲佐町

4月26日(火)開設:【熊本県】嘉島町、阿蘇市

4月29日(金)開設:【熊本県】御船町

内閣府のホームページより、抜粋 <http://www.bousai.go.jp/>

○ボランティア募集を全国に拡大

- ・以下のセンターでは、ボランティアの募集を全国に拡大している。

熊本市、益城町、御船町、西原村、宇城市

○災害義援金、災害ボランティア活動支援金の募集について(熊本県社協)

熊本県社協では、平成28年熊本地震に係る災害義援金、災害ボランティア活動支援金の口座を開設し、被災者への義援金や災害ボランティア活動の支援金を6月30日まで募集する。

なお、取りまとめた義援金については、熊本県共同募金会を通じて熊本県内の被災者に配分することとしている。

詳細については熊本県社協をご覧ください。

http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/kiji/pub/detail.asp?c_id=16&id=1060&type=top

○災害派遣等従事車両証明書の発行に係る留意点について

熊本県危機管理防災課から、ボランティアが使用する車両で、高速道路を利用して被災地のボランティアセンターを往復する料金については、6月30日までの期間、通行料金が無料となることが発表された。

詳細については熊本県社協をご覧ください。

http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/list_html/pub/detail.asp?c_id=56&id=8&mst=0&type=

下記のサイトも活用ください。

◆「被災地支援・災害ボランティア情報」

<http://www.saigaivc.com/>

◆「熊本地震特設サイト」

<http://shienp.net/>

◆熊本県社会福祉協議会ホームページ

<http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/>

◆熊本県ボランティアセンターtwitter

<https://twitter.com/kumavc>

◆熊本県災害ボランティアセンターFacebook

<https://www.facebook.com/kumashakyo/>